

### 第 3 課 すべての人が罪を犯した

#### 安息日午後 今週のテーマ

「恵み」とは受ける資格のない者が受けることをいいます。もし、私たちがなんらかの資格をもって救いを受け取ろうとするならば、それは「報酬」となります。神様は「恵み」をもって私たちに救いを与えてくださいました。私たちは皆、「恵み」による以外に救いを得ることはできないのです。

聖書研究ガイド 18 頁、24 頁にあるエレン・G・ホワイトの文章は大変重要です。

#### 日曜日 福音を恥としない ローマ 1:16、17

「福音」(ユアゲリオン)とは、「戦場に向かう戦列、兵士はそれぞれが家族を郷土に置いて…するとはるか前方で伝令が伝わっています。遠くに見える兵士たちは武器を下ろして、歓声をあげている様子…やがて自分のもとにも伝令が…それは、我が軍の勝利、戦争の終結、帰還命令でした。兵士は涙を流して喜び、後ろの兵士にその伝令を伝えるのです。この伝令こそ、ユアゲリオン (福音) の元となった言葉です。

「神の義」とは、サタンの欺瞞に対する答えです。それは神様が正義と愛のお方であるということです。罪人がキリストの十字架によって義とされること、それは神様の正義と愛を証明することとなるのです。(ローマ 3:26 参照)。

「信仰」とは真実という意味です。それは私たちの真実というよりは、神様の真実です。私たちは神様の真実によって永遠の命をいただいているのです。

Q. イエス様にあって与えられている約束を自分のものにするにはどうしたらよいか？

A. 自分の業や自分の真実に救いの根拠を置かず、神様の真実に救いの根拠を置きます。

#### 月曜日 人間の状態 ローマ 3:9~20

人にはそれぞれジャンプ力があります。バレーボールの選手と自分とでは大きな開きがありますが、バレーボールの選手とて、10 階マンションの屋上までは跳べません。自分の力で救いを得るということは、それ以上に不可能なことです。私たちには、それぞれ道徳的資質、霊的資質に違いがあります。しかし誰一人として自分の道徳的資質、霊的資質によって義とされることは不可能なのです。

#### 火曜日 1 世紀から 21 世紀へ

サタンは、目に見える世界だけがすべてであるかのように眩惑します。金持ちが必ずしも富んでいるわけではなく、貧しいものが必ずしも貧しいわけではありません。

「わたしは、神の民が、魔法をかけられた国におり、ある者は、時の短いことや魂の価値について、全くといっていいほど自覚を失っているのを見た。安息日遵守者の中に、誇り、すなわち、衣服や外観の誇りが忍びこんできている」(『初代文集』223-224)。

#### 水曜日 ユダヤ人も異邦人も ローマ 2:1~3、17~24

快樂に走る者、その者を裁いて安心する者、自分の力で救いに入ろうとする者、三者の共通した特徴、それはいずれも神様が不在だということです。

#### 木曜日 悔い改め

私たちの救いの根拠はキリストの十字架による贖いです。そして救いの目的は、全人的回復です。十戒に表される霊的回復、道徳的回復も救いの目的です。私たちは自分の行いや品性に救いの根拠を置いてはなりません。しかし救いの目的(全人的回復)を拒んではなりません。

Q. イエス様が大好きになるにはどうすればよいか？

A. 悔い改めてイエス様に赦されること。人は多く赦されると多く愛します(ルカ 7:47)。